

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岩国市	生見地域(小河内集落、金山集落、中村集落、志谷集落、長野集落、貞清集落)	令和3年3月23日	令和4年3月25日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	49.9 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	27.5 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	23.0 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4.9 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	12.2 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	3.2 ha
(備考) 金山集落においては、平成14年3月に集落営農組織結成。 平成19年3月に志谷集落に農事組合法人を設立。	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

地区内の耕作面積の半数近くの農地を70才以上の農業者が耕作しており、農業者の高齢化が進んでいる。また、70才以上の農業者の約3割が、後継者が決まっておらず、後継者不足も心配される。法人及び営農組織においても、大幅な経営面積の増加は難しいため、新たな農地の受け手の確保が必要である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・生見地域は、原則として話し合いのもと、法人及び中心経営体に、農地集積・集約をしていく。また、地域農業の担い手となる農業者の育成や、地域単位での鳥獣対策も行うことで対応していく。

・今後の方向性を地域で話し合う場を設ける。

原則として話し合いのもと、法人や集落営農組織及び中心経営体に農地集積・集約をしていくほか、認定新規就農者や農業バイトの受け入れを促進することで対応していく。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
計	13人		21.7 ha		24.9 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

【農地の貸付等の意向】

高齢化等の理由により、法人に農地を任せたいという意見が多数である。

【農地中間管理機構の活用】

農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。

中心経営体の高齢化等により、営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や、新たな受け手への付け替えをすすめることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸し付けを進めていく。

【鳥獣害被害防止対策の取組方針】

地域による鳥獣害対策の集落マップ作りや捕獲体制の構築等に取り組む。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。